

第1回 小学校再編に関する地域住民説明会（小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 令和元年10月16日（水） 19時開始
- 場 所 : 小松島小学校体育館
- 参 加 者 : 25名
- 教育委員会 : 小野寺教育長 他8名
（事務局）
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
① 学校再編の目的
② 学校再編の具体的方針
③ 検討プロセス
④ 今後の進め方
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○中学校に上がるときに親は高校をにらんでいる。小学校でよい子は阿南の富東「中高一貫」に行くか私立高校に行く。予測困難な社会にどう対応していくのかという思いがあるが、現状とそこらをにらんでよく分からない。

→（回答）

最初の「予測不能」の話は、小学校の新学習指導要領が今回改定になり、来年から完全実施する形になる。その中で今、「予測不可能な社会」という表現が文部科学省からも出されている。一昔は知識をたくさん覚えればそれで成績が上がっていく時代。でも、「予測不可能な時代」になってくると、知識だけでは乗り越えていくことができない。知識を持って自分でどのように解釈して課題を持っていくか。周りの人たちと協力して新しいものを見つけていくというようなプロセスが必要になる。

今回の学校再編の目的の一つで「切磋琢磨」という言葉が何度か出ているが、要は「予測不可能な社会」だから、どんな状態になっても子どもたちが考えて生き抜いていける力を付ける、それを学校現場としたら一番に考えて取り組んでいきたい。だから、先ほどの話の中で、小学校が2つあって、中学校の3つの学校、という話が出てきたが、そういう中で今までなかなかできなかった連携を深めていくことで、そういう部分の力を身に付けていきたい、というふうに考え再編を進めていきたいと思う。

○再編計画の中で人数のアンバランスが非常に気になる。和田島と児安は現行のままで校区変更もない。南校の場所には600名が集まる。現行の南校の敷地も言うほど広くない。600名の子どもがたたみ1畳ぐらいのグラウンドで学校生活を送らないといけないのか。

→ (回答)

先ほどの南小松島小学校の敷地の話。2030年に606人の予測だが、運動場は基準面積を満たす面積は一応確保できる状況。大きい学校と小さい学校のアンバランスな学校ができるということになるが、これは小学校と中学校の連携、小学校と小学校の連携によって、他市町村でも事例はあるが、例えば、「1中学校・3小学校」であるとか、「1中学校・2小学校」であるとか、という「小中一貫校」の形態がある。詳細な教育の内容については、連携をすることによって、アンバランスになる部分に対処していけるように取り組んでいきたいと考えている。

○小松島小学校がなくなってしまうと、どこに避難するのか。小学校の体育館というのは収容人数も多いし、一番核となる箇所であると思っている。災害面で今特に堤防が決壊し被害が起きている中、後退するような話は施策としてよいのか。

→ (回答)

現在、市内の小学校は、体育館、校舎が全て耐震化を一応完了している。跡地利用の問題もこれから庁内検討会議にかけてどうしていくかを、地域住民の方のお知恵を借りながら進めていくつもりではいるが、ここが閉校になってもすぐに体育館を取り壊すとか、校舎を取り壊すとかは考えていない。跡地については、今後の検討課題にはなるが、避難所としては当面は使っていただけると考えている。

○この空いている間に少しだけ。私、話させていただきたい。質問じゃない。お一人目の方のご質問、阿南や徳島のような教育のトップレベルを小松島はめざさないのかというものだったと思うが、それに対し明確なご回答をいただけなかった。お二人目の方自身がお話された質問に対しても。今、多分、質問の根本にあるのはこれは案だと思われる、もちろん案だが、この案自身が最終に近い案なのか、それとも今後変換の可能性のある案なのか、という認識が私たちの中であるかどうか。それと、市として求めているかどうかの共有が多分ないと思う。これ自身、令和3年から始まる。南小松島の設計が始まる。つまり、今、令和1年目。12月にアンケートして、来年度決定したら、もうスタートが始まる。つまり、この案自身、一つの案しか出ていない。つまり、それがどういう意味合いをもって今この設問を私たちが聞くべきか考えていただき、ご質問をしていただくほうが私はよいのではないかと考えている。すみません、質問ではないが、横入りした。

○役所のスキームは、一つ案があって、それを実行していく。この4校案は、実際の計画。それを皆さんに聞いてガス抜きをし、順序立ってスキームを進展させ最終決めて行く。パブリックコメントだってガス抜きでするだけ。私、役所にいたからよく分かっている。これは、4校案が既に決定されていることを皆さんに話し、了解をいただく場所。

→ (回答)

今はもちろん案の段階。案ということで説明させていただいている。市民アンケートの結果を検証して、この案で行くかどうかを判断していく。

○役所の仕事を皆に説明をしてもいかんと思う。例えば、この再編の話で、子どもに新しい小学校に行くにはどれくらいかかるかとか、運動場がどれくらいの広さになるか、今いるところより広くなるのか、

狭くなるのか。そういう具体的なものが見えない。机上の話だけを格好のいい表現で書いているだけ。

もう少し現実を浴びた話、説明が聞きたい。なぜ南小松島と児安にしたのか。そういう説明がない。大きな括りで説明しているだけ。もう少し細かい説明を。これは案で、決定ではないんですね。

→ (回答)

もちろん案である。ただ、これが一番よいだろうということでお示しさせていただいた案である。

○全てポジティブなことしか書かれていない。ネガティブな要素が一切ない計画は、事業計画として一番失敗しやすい。リスクが書かれていれば対策を練っているのだろうと分かるが、資料にはない。もう少しネガティブなことも書いたうえで「こう対策する」というのを示したほうが、子どもを持つ親は安心。

○資料のⅢ-⑱の表現はすぐに撤回してほしい。「徒歩 30 分以内の範囲で 95%がOKと言った」って、一番多いのは 20 分以内で 57%。「30 分以内でOK」と言ったのは 95%ではなく、22%ということになるはず。これは撤回したうえで、スクールバス、学校再編云々は、当然、財政の問題とかいろいろあると思うが、もしそうなった場合に、通う子どもの安全性だけは絶対に守らないと何のためにやっているのか分からない。だから、1.8 km以上 2 kmを超えたらスクールバスを導入するとか、そんなレベルの話ではなく、小学校 1 年生、2 年生はスクールバスを採用するとか。1.8 kmでも危ない道を通る子なら希望者だったら認めてあげるとか。通学距離に対する概念だけは見直してください。絶対間違えていると思う。

→ (回答)

「95%の人が 30 分以内を望んでいる」というのは、訂正する。もちろん学校に近いほうがよいという保護者が多いのは分かっているが、なぜ 30 分が出てきたかと言うと、望んではないが 95%の人が 30 分以内の・・・30 分以上を望んでいる人は、逆に 5%しかいなかった。

再編を考えると、通学支援の問題があり、通学支援をどの範囲にするかで、基本計画では「徒歩で通学距離が 2 kmから 3 kmを超える場合は通学支援します」ということであつたので、その方針に合わせる形で距離を描いて・・・

○小学校 1 年生に 2 km、3 km歩かせるというのは無理があるから、これは潔く認めたほうがいいのでは。2～3 kmの距離を歩くのを、ただ歩くのではない。毎日 10 kg近いランドセルやら荷物を背負い毎日往復する。大人だけの考えだけで、子どもの身になって全然考えていない。

→ (回答)

先ほども通学支援の範囲は通学部会でこれから検討すると言ったが、一定の目安として 1.8 kmの円での支援ということで今回させてもらっている。ただ、先ほどの「95%の人が望んでいる」というデータに関しては、訂正をしたいと思う。

○根本的に見直してもらわないとまずいのではないか。今の話から考えると、子どもにランドセル背負って 2～3 km歩かせるという、1・2 年生も。その考え方、もう一度見直したほうがいい。計画の根本的な見直しが私は必要だと思う。小学生がどれだけ荷物を持っているか見たことがあるか。鞆に夏なら水筒。それで終わって、そのまま学童保育に来ている。私たちが若いときに 30 kg・40 kgのリュック

を背負い山に行くのと同じ。経験してください一度。スクールバスのバス停は当然限られている。どんな危険なことがあるか十分に検討したか。

→ (回答)

現段階において4校案という案をお示しさせてもらっているが、それを出す段階においていろいろな条件を考えた。先ほどから出ている内容に関して、再編を進めていく段階になったら、準備委員会の中で当然もっと詰めていくべき。要するに、通学支援がさらに必要であると。ないしは、道が悪いのであれば別な方法も考えながら、ここはコース的に難しいかなとか、そういう問題は当然この後、話が進み出した段階では考えていくべきことだと思う。

○こういう計画案を出すメンバーでそれができるか？

→ (回答)

先ほど説明があった、準備委員会の中で、当然学校の先生方にも入ってもらったり、保護者の方にも入ってもらったり、といった形で考えていく。それで、先ほど距離数が出ているが、基本的に、文部科学省では「小学校は4km」という前提がある。ただ、4kmというのはあまりに乱暴で、そんな距離はなかなか歩けないだろうと。私も小学校で校長をしていたので、1年生の子が4月当初に親に連れられ、通学の練習を最初にする姿を見ているので、そういう部分は当然配慮をしていくべきと考えている。

「30分」という数値的な部分が出て、その部分でご指摘もお受けしたが、実際に1.8km以上というのは絶対に無理だろうと、これは歩けないのではないか。という判断で、この計画を立ててきた。30分ありきではなく、案をつくる段階の数値として出させていただいていることで、認識してもらえたらと思う。

○4校案が確定した中でその辺を検討するということか。

→ (回答)

この案がご了解いただけるのだったら、ということ。

○ここの体育館が避難場所になっていると言っていた。この体育館、十年かもっと前の方から危ないから建て直すと。ホールもだめだからやり直すと言いつつ言い続けてきた。それが、今になって「避難場所です」というのはどういうことか。お尋ねしたい。

→ (回答)

現状、この体育館については、危機管理課が所管になるが、「避難場所」として指定されている。避難場所については、当然避難してくる方を受け入れるため、そこに配置する職員も勘案し、現在公共施設のほとんどが避難所になっているが、今のところは11小学校校区で1か所若しくは2か所を開けている状況。施設については、当然老朽化も進んでおり、いつまでも使える状況ではないと思う。使える間は利活用等を踏まえて使っていきたいということで、当然、この小学校は体育館、校舎はまだまだ活用できているので、もし小学校の再編があって校舎が違う用途に使うことがあったら、市全体でどのような活用方法が一番いいのかを検討し、違う使い方をしていきたいと考えている。

○体育館が教育委員会の担当ではない、と今おっしゃったが、多分、東北みたいなのは来るか来ないかわからないが、一番に潰れるのは体育館だと思う。だから、避難場所としては、逃げ込めるのは小学校が一番頑丈だと思う。でも、鍵をかけたか、先生がいなかったりしたら、どこも行けません。入れない。

そういう場合はどうするのか？

→ (回答)

避難所も「緊急避難所」「一時避難所」というように決まっている。「緊急避難所」は、津波が来た場合に逃げるということで、それは当然高いところを想定しており、ここの敷地で言うと、小学校校舎を指定している。これも緊急の場合は窓ガラスなどを割り入っていただくということで、危機管理課から地域の方々にも自主防災等を踏まえてお知らせ等をしている。

ここの体育館は当然、津波のときに全体が浸かることが考えられ、「緊急避難所」のような扱いはない。例えば、台風時に大雨等で非難したい方が避難するという形で考えている。

○自分の職業を言っただけだが、この体育館の建て直しの工事が出るのを楽しみにしていた。10年ももっと前に。未だに建て直しの工事の指名が来ない。それなのに「避難場所」というのはおかしい。だからここで言わせてもらった。

○跡地利用については、坂野中学校と立江中学校は今どうなっているのか。

→ (回答)

中学校の校舎自身は解体している。体育館は、そのまま社会体育の施設として今活用している。

○残っている体育館は避難場所に指定されているんでしょう。機能するのか？

→ (回答)

先ほども言ったように、「緊急避難場所」ではないが、当然、大雨等が発生した場合、体育館が避難所として機能する場合はあるが、現実には、職員等の配置のことがあり、近くの公民館などを開け、近年は、坂野や立江の体育館を開けたという事実はない。

○小松島小学校も校舎を壊し、耐震できていない体育館だけ残すのか。

→ (回答)

先ほども説明をしたが、小学校の関係の校舎と体育館は全て耐震化ができていますので、今すぐに再編が決まってからすぐに取り壊すことは、現在は考えていない。

○この雰囲気ですら私わりと賛成というか、賛成派なので、これで言うと裏切り者のようになるが、私この卒業生であるし、子どもが今1年生で通っている。私聞いていて、この前の基本計画の段階のところでは私は賛成していて、再編は致し方がないだろうと。その中でどういう再編をするのか分からないが、ひょっとしたら再編の仕方によったら、本校はなくなるかも知れないなと思っていた。

今回、実施計画案が出てきて、やはり実施計画、建物、どこに集めるかという話なので、3点。中長期的な視点で考えないといけない。2030年でスパッと切っているの、その後どうするのかなという意見が皆さん出ているんだと思う。2つ目が、都市計画の視点。都市計画マスタープランで、どこに建物と人を集めてくるかが決まっているので、具体的には、正に、南校のあたりと、新開のあたりの考え方というのは合っている。もう1つ言われていた、建築計画の関係で公共施設の計画を踏まえて2060年で書いているので、市の学校施設と言えどもやはり市の公共施設の一つなので、2060年までの子どもの流れだとか、それに合わせての絵を書かないと、多分皆さんここで答えが出せないのかなと思う。

そこで私2点提案したい。Ⅲ-⑩のスライドで、私は2030年のもう少し以降のことを考えているが、この段階で南校に児安以外の全部を集めると600いくらとなってしまう。そうすると、南校にマンモス校を1つつくる。人口を辿っていくとそのうち、この数がさらに半分になってしまうので、折角南校にマンモス校をつくっても、またすぐに10年、20年したらお子さんが半分くらいになっている。そのくらいの人口予測が立っているから、2030年の段階では、本校の校舎あるいは北校の校舎、スクールバスが通えるというあのデータを見ると、北校のほうが道が広いので、北校の校舎を2030年くらいまで使い、そこに本校、千代校がスクールバスで来ると。

2030年で切るのではなく、40年、50年の長期スパンで、30年時点では北校の校舎くらい併用する、その辺り一つ考えてもらえたらどうかと思う。そのうえで、南校の保護者が今皆さん言っていたように、手狭になっているので、お隣の幼稚園、あれも1967年とかそのくらいなので、あれも60年来ているので、あそこも壊して南校全部ひとつに建て替える。その代わり、南校の幼稚園をこども園にして、ここへ、本校校舎のここへもらえたら。ひょっとしたら、この辺にも子どもが多く集まっていくなかなと。そういう全体の他の公共施設なんかも考えてやっていかないと、上手くいかないのかなと思う。

2点目の南中学校の校区だが、ここはまさに和田島の小学校をどうするかという話。和田島の小学校で実際に人口がいるのは、ニュータウンのところ。あそこに子どもの人口重心という、人口の重心がある。絵は小学校を中心に円を描いているので広いなと思うが、実際に子どもがたくさんいるのは、ニュータウンのところ。そうすると、和田島の子も頑張ったら新しい新開小学校まで通えるのではないかと。だから、小学校を起点に書くのではなく、人口データって市の中にあると思うので、子どもの人口重心や将来予測のデータも持つて思うので、和田島もまとめて一つにする。あるいは、2030年時点で和田島ってまだ140人前後いるので、2030年の時点では耐震化できているので、60年でぴったりと地震が来たらすぐに壊れるというわけではないので、ギリギリ100人を切るくらいまでは和田島の今の校舎を使い、然るべき時点で新しい新開小学校に移っていく。できるだけ和田島の校舎も使っていないと。今もし和田島の校舎を建て替えてしまえば、児安の方もそうだが、新築で建て替えても結局、すぐに子どもがいなくなって使わない施設ができてしまう。それが一番多分、子どもたちにとって不幸なんじゃないか。

最終的にここにいる皆さんいますか、という話になるが、私も多分いなくなる。30年、40年くらい考えると。そうすると、建設し、それを維持していくのは子どもたちだから。それを考えると子どもたちができるだけ小松島に残って、これからもここで過ごしてもらいたいなって思っているのは皆さん考えていることは同じと思うので、今つくるときにスクールバスでちょっと遠くなるという世代間の不公平は何とか平準化しないといけないと思うが、やはりもうちょっと中長期で考えないと、新しいものを4つつくってしまうやり方でなく、もう少し2040年とか50年まで見ながらソフトランディング。この案をベースにソフトランディングさせていっていただけたらいいのではないかな。そういう意味で、私今は半分賛成で、この案をベースに、私が今言ったような意見を加えていただけたらなと思う。

→ (回答)

一番最初のところで、敷地を南小松島、児安とさせていただき、施設は基本改修ですが、建て替えが困難な場合は新築させていただくことにしているのは、国でも言われている長寿命化のほうで、国では新築の6割程度の費用をかけて耐用年数を例えば30年延ばすような工事をしていく。

先ほど言っていた、2060年のことは、人口推計を当然うちでもしているが、2030年時点、一応1,125人としているが、2060年時点ではこれは予測だから、当たるかどうかは別にして、その多分半分

以下の人数になってしまうという結果も出ている。

今の段階で 30 年後の再編のことを今言うのもあれだが、何せ今施設を整備するためには、今の人に入ってもらわないと困るので、そういう規模で建てたり長寿命化をしていくが、将来予測も考え、全部新築というのではなく、そういう耐用年数も伸ばしてその間使ってということで、そういう表現にさせていただいている。

○和田島小学校を再編するというが、僕らからしたら、和田島小学校は逆に危ないのではと思う。そこで、また和田島小学校に一つつくるのはどうなのか。もっと内地の方に。和田島小学校を坂野中学校の所にして、そこで坂野や他のところを一つにまとめるような、内地に移動させる手はないか。

→ (回答)

市で「津波避難計画」というものを立てており、それぞれの小学校の津波の浸水域を出している。和田島小学校は、2～3 m 浸水する予想。この値は、小松島中学校でも、南中学校の場所でも 2 m 浸かると。小学校敷地の中で最も浸水するとされているのが、南小と北小の敷地。こちらは 3～4 m。

○ほな、そこに集中させるのはおかしくないか。

→ (回答)

基本的には 11 小学校と 2 中学校で、基本的には、浸からないところはない。

○それは分かっているが、じゃあ、いっぱい土を盛って高くしたりするのか。

→ (回答)

盛土とか、南中学校のような 1 階を使わないような構造にして津波に備えるとか。これは当然、計画が決まり、実際に設計をする際に検討を行っていくことになるが、そういう想定してこの計画にさせていただいている。

○仮に、これ案だというのが、対案を出したい、あるいは、大学の先生からこんな案はどうかというのがあって、これを検討会議で検討しようというのは、これで言うと、何月くらいにあたるのか？

元々の目的を最初に示されているが、多くの仲間と生活をしたり、義務教育の 9 年間を見据えた、ということ掲げている。それを実現するために再編するという話の流れで、学校規模は「12 学級」「1 学級 18 人以上」という話で、これを実際に実現しようという意味合いで今回の再編をするのであれば、Ⅲ-⑩検討プロセスで、南小松島小学校は 606 人、児安 109 人、新開 266 人、和田島 144 人。沿っていない。先ほどそれに対する回答で、中学校 1 つで小学校 2 つでの連携ができるからという回答をされていたが、それは答えにはなっていない。残念ながら。これ自身が、もし本当にこの目標が正しくて再編するのであれば、各中学校の横に小学校が 1 個ずつつくっ付いて、2 校にならないとおかしい。本来案としては。それが皆さんに評価されるか、されないかは別にして。

必ずそういう案は出てくるはず。もしくは、先には検討されたんだろうというのは、この中で伺える。2 校案があつて否定されたから 4 校にされたのかも知れないが、それだと 2 校案と 4 校案で示されたら、皆さんいろいろ意見があると思うが。これは最初の頃に厳しい意見があつたが、4 校決定ですかと言われたのはそこだと思う。当然、いや 2 校がいいのではないか、という対案が出てくるのではなからうかと。今現状が案なのであれば、その対案が出たときに検討されるのかと。するなら、いつ、どういう形

かと。

→ (回答)

12月上旬にアンケート調査をすると説明させていただいたが、例えば、アンケートの項目の中にそのような項目を入れるなりで、アンケート調査をして、その結果によって、ということも判断材料として考えられるかなど。もしその結果によってこの4校案の支持が低く、案の内容が大きく変わるような場合は、当然もう一度住民説明会をして、という話になる。今示しているスケジュールは少し変更するようになるが、そういうことも考えている。

○12月に調査アンケートを行い、このアンケートは地域別、年代別を取るのか。そのうえで、2017年の小学校が1,776名中、南小、児安、新開、和田島の子は1,048名。この状況で賛成多数になった場合、仮になった場合、これは3月までに成案になるのか。

→ (回答)

例えば、アンケート結果で過半数を超えた場合、どう進めていくのかだと思いが、アンケートの内容についても現在作成中であり、その結果の判断は、現段階で例えば50%を超えたから行くとかは、ちょっと今は即答できないところだが、より多くの方に理解をいただけるように努めてまいりたい。現時点ではそのような回答になる。

○ちょっと意見を言いたい。この案はタタキ台で、決まった案ではないのだろう。これからますます厳しい意見も出ると思うので、十分に取り入れて変えていかないと、決まった案では収まりがつかないような話になると思うので、十分に皆さんの意見を聞いていただいて、これはタタキ台ということで。いきなり「予測不能な社会」と言われても分からないので、いろいろな意見も吸収できると思うので、よろしくお願ひしたい。

○貴重な機会ありがとうございます。スライドのⅢ-②「検討プロセス」「考察結果のまとめ」のところで、質問をさせていただきたいが、この2校、3校、4校案の中で、なぜ4校だけ取り沙汰されているかということと、実際、南小2校の方だと、南と新開が残り715と410だが、実際、私が南校に通っていたとき、学年4クラス、1クラス42名なので715名より多いので、同じサイズより大きくしないといけないのは絶対あり得ないと思う。

あと皆全員、小松島の小学校は耐震しようとしたとして、していいと思うが、私、建築やってて分かるが、東日本大震災みたいに、2回同じ地震が来たらもたない。免振でない。だったら、私4歳の息子がいるので通わしたいが、地震2回来る可能性もあり得ますよね、南海地震は。だったら、小学校も。そもそも、この体育館も持たないしRCも持たない。となれば、ちゃんとした小学校をつくってほしい。というお願ひと、あと、このコストのところ。「建設費」「仮設有」と「委託料」「コスト計」とあるが、これは新築の金額なのかが1点なので、児安と和田島を新築するという計画なのか。出来るだけメンテナンスしていくという項目があったので、どちらで検討しているのか。

→ (回答)

Ⅲ-②の「建設費」のところは比較を分かりやすくするため、当然、子どもいながらになるので、仮設を設けながら新築していくという内容。資料としては、一般的な単価で普通教室数や教室の一般的な面積で積算した新築の建築費がここに示させていただいているもの。

別の方にも答弁したが、国で長寿命化、鉄筋コンクリートについては、耐用年数を伸ばす長寿命化の工事をするのは、これも一般的に言われているのが、30年延ばすのに新築の6割程度の費用がかかるといことで、国で言われている。当然、建物の状態によって金額は大きく変わっていくが、コストとしては分かりやすく新築の金額で算出している。

基本的には長寿命化することで30年延ばす。それができない場合は建て替えと考えている。現在どれをどうするかの詳細はまだ決まっていないが、そういうことでそう書かせてもらっている。